



高橋由一、岸田劉生、そして現代につながるもの

# リアルの

1950 1940 1930

SHOWA



TAI SHO

MEIJI

# ゆくえん

高橋由一（鮭）（部分）制作年不詳 山形美術館寄託

2020

磯江毅（鮭）高橋由一へのオマージュ（部分）2003年 個人蔵

2017年 9月23日(土祝) → 11月5日(日)

10:00~17:00(入場は16:30まで) 休館日:月曜日(ただし10月9日は開館)、10月10日(火) 観覧料金:一般1000(800)円、大学・高校生600(400)円、中学・小学生200(100)円 ※( )内は前売・20人以上の団体料金 ●会場:姫路市立美術館企画展示室 ●主催:姫路市立美術館/NHKプラネット近畿 ●後援:NHK神戸放送局  
前売券取り扱い場所(9月22日まで) 姫路市立美術館友の会、キャスバホール、兵庫県立歴史博物館、神姫観光姫路旅行センター、ヤマトヤシキ友の会、中井三成堂、加古川総合文化センター、兵庫県立美術館



姫路市立美術館

「鯉」の絵で知られる日本洋画の先覚者、高橋由一。彼は江戸時代より徐々に将来された西洋画の逼真の写実表現に感動し、洋画家を目指しました。以来、実に多くの画家たちがこの西洋由来の写実技法を学び、さまざまな作品が生まれます。

その一方で早くも明治中期には、黒田清輝が外光派風の作品を発表し、その親しみやすさから写実絵画は穏健な叙情性を重んじることとなり、これが日本の官展アカデミズムの主流となります。以後、近代以降の日本の美術史は、外光派風写実と、それに反発する印象派以後の美術（モダニズム）の流れで語られています。

由一が衝撃を受けたリアリズム、逼真の写実は、大正期の岸田劉生などの諸作に引

き継がれるものの、美術史の表舞台からは後退した感が拭えません。劉生以外にも、写実の逼真性に取り組んだ画家たちも少なからずいましたが、その多くは異端の画家として評価され現在に至っています。

近年、細密描写による写実が注目を集めています。また、磯江毅のように高橋由一をオマージュする作品を描く現代画家たちも目立ちます。

そこで本展は、移入されてから一五〇年を経た写実表現がどのように変化し、また変化しなかったのか、日本独自の写実が生まれたのか否か、を作品により検証します。

明治から現代までの写実絵画を展観することで、写実のゆくえを追うものです。



岸田劉生《野童女》  
1922年 神奈川県立近代美術館寄託



田村宗立《加代の像》  
1879年頃（一財）倉敷山田コレクション蔵



高島野十郎《蠟燭》  
大正期 福岡県立美術館蔵



長谷川清二郎《猫》  
1966年 宮城県美術館蔵



大塚 勉《梅雨の晴れ間》  
1986年 個人蔵



木下 晋《休息》  
2010年 平塚市美術館蔵



牧島如鳩《瀧々澤大辯才天像》  
1951年 足利市立美術館寄託

## 1 写実の導入（明治黎明）

高橋由一 加地為也  
五姓田芳柳 岩橋教章  
堀和平 床次正精  
田村宗立 川村清雄  
五姓田義松

## 2 写実の導入（明治中期以降）

本多錦吉郎 小泉成一  
高橋源吉 原田直次郎  
中村不折 伊藤快彦  
桜井忠剛 満谷国四郎  
石川寅治 寺松国太郎

## 3 写実の展開（大正）

劉生と草土社、  
その地方への伝播  
岸田劉生 河野通勢  
椿貞雄 清宮彬  
大澤鉦一郎 宮脇晴  
清水敦次郎 三輪四郎  
伊丹万作 重松鶴之助

## 4 昭和（戦前・戦後）

響光 小糸源太郎  
高島野十郎 寛忠治  
中原寛 長谷川清二郎  
牧島如鳩 牧野邦夫

## 5 現代の写実

奥谷博 野田弘志  
河野通紀 上田薫  
大塚 勉 吉村芳生  
木下晋 三浦明範  
磯江毅 本田健  
水野暁 安藤正子

※ 会期中、3点の展示替えがあります（前期：10月15日(日)まで／後期：10月17日(火)から）

### 関連イベント

**子どもギャラリーツアー「リアルって何？」**  
9月30日(土) 当館学芸員をナビゲーターに、楽しく展覧会場をめぐります。参加方法：各回先着20人 会場：企画展示室（企画展の観覧券が必要、当日に限り半券可）対象と時間：小学校1〜3年生 午前10時30分〜午前11時30分 小学生4〜6年生 午後2時〜午後3時 ※小学生以上も参加可能ですが、内容はそれぞれの対象にあわせたものとなります。

### ギャラリー・トーク

9月30日(土) 午後2時より当館学芸員が、展示室で作品の解説をします。会場：企画展示室 参加方法：先着20人（午後1時30分に展示室前にて整理券配布、企画展の観覧券が必要、当日に限り半券可）

### 解説会

10月7日(土) 午後2時より（午後1時30分開場）展覧会の見所を、画像を使って解説します。講師：当館学芸員 会場：2階講堂 参加方法：先着100人

### 鼎談イベント「リアルのゆくえを語る」

10月22日(日) 午後2時より（午後1時30分開場）本展の出品作家の木下晋氏と、本展の企画者2人が、この度の展覧会の意義、自作におけるリアルについてなどを語ります。  
講師：木下晋氏（美術家／本展出品作家）  
木本文平氏（碧南市藤井達吉現代美術館館長）  
山田真規子（本展担当学芸員）  
会場：2階講堂 参加方法：先着100人

**常設展示室 國富奎三コレクション**  
近代フランス絵画 モネからマティスまで

**同時開催 コレクションギャラリー**  
新収蔵 郷土を描く版画家 乾太Ⅱ  
9月12日(火)〜10月15日(日)

新収蔵 松岡映丘の下絵  
10月17日(火)〜11月19日(日)

次回予告  
永井一正ポスター展  
11月12日(日)〜12月24日(日)

ご案内  
姫路市書写の里・美術工芸館  
Tel. 079-267-0301  
「特別展示 姫路千年の草 - 伝統と技 -」  
9月2日(土)〜10月15日(日)

「秋季特別展示 アジアのやきもの - 中国と周辺国々の陶磁器」  
10月21日(土)〜12月24日(日)

姫路文学館  
Tel. 079-293-8228  
「特別展 没後20年 司馬遼太郎展 21世紀“未来の街角”で」  
10月21日(土)〜12月10日(日)



姫路城東隣 〒670-0012 姫路市本町 68-25 Tel. 079-222-2288  
<http://www.city.himeji.lg.jp/art/>

**交通のご案内** JR・山陽電車姫路駅より、神姫バス⑦または⑧乗り場から⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲乗車約8分、「姫山公園南・医療センター・美術館前」下車すぐ。姫路駅より徒歩約20分（姫路城東隣）。※美術館には駐車場がありませんので近隣の駐車場（有料）をご利用ください。※上記路線バスのほか、姫路城ループバスも停車します（停留所は「美術館前」）

